

県内小・中学校に今後の取組の参考となるものを届けることをねらいとして「アドバイザーズ・ビューポイント」を作成しています。今号では、新様式の学校経営アクションプラン（AP）を作成する際のポイントを示します。裏面の「**新様式のAPの記入例**」と併せて参考にしてください。

APを作成する際のポイント ～目的と手段を整理して作成する～

Advisers' viewpoint



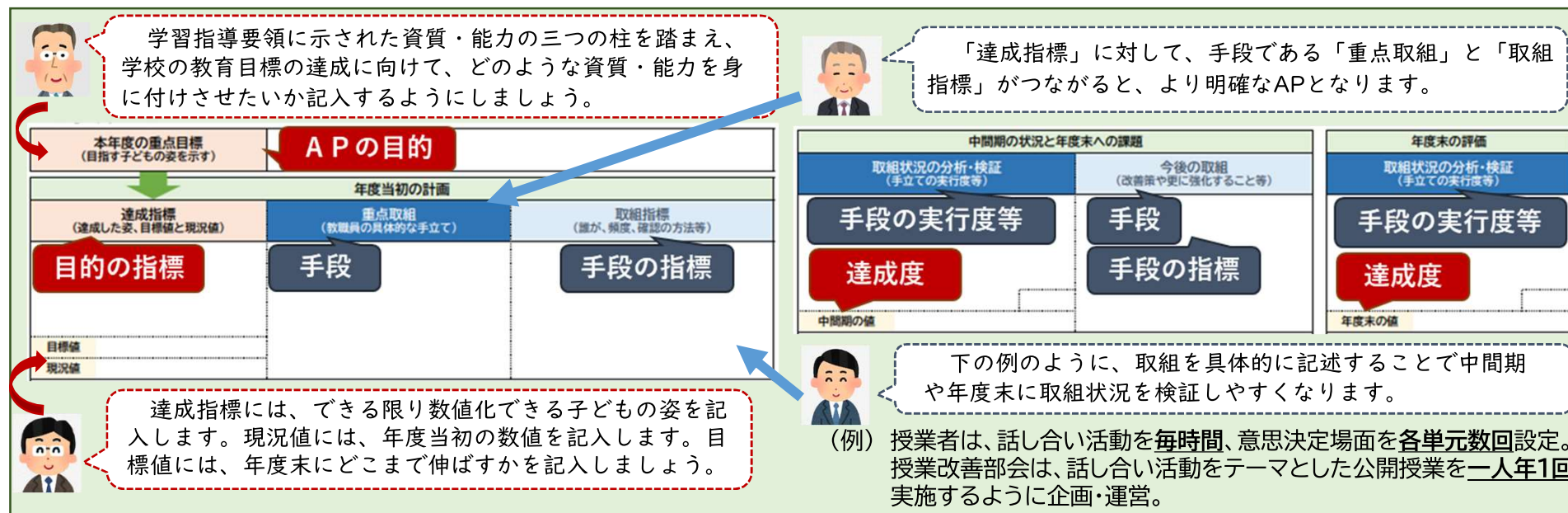
© 岡山県「ももっち」

【**本年度の重点目標**】には、目指す子どもの姿を記し、APを作成する**目的**（ねらい）を明確にしましょう。【**達成指標**】には、できる限り数値化できる達成した姿を記し、**目的の指標**となるようにします。

【**重点取組**】には、達成指標に係る**手段**（教職員の具体的な手立て）を記します。【**取組指標**】には、【**重点取組**】を「誰が」「どのくらいの頻度で」行うかなどを記し、**手段の指標**となるようにします。

【**中間期（年度末）の値**】には、【**達成指標**】に基づく**達成度**を記します。4月から児童生徒がどのように変容したかを明確にし、今後の取組の改善に役立てるようにしましょう。【**取組状況の分析・検証**】には、【**取組指標**】に基づく**手段の実行度等**を記入し、【**重点取組**】がどのくらいできたか、できなかったか。また、その要因は何かを記します。

図「令和5年度 学校経営AP」における目的と手段のイメージ



目的と手段を整理してAPを作成することで、中間期や年度末に、目的の達成度と手段の実行度を検証しやすくなり、一年間のPDCAサイクルが有効に機能します。また、対外的にも校内向けにも、誰が見ても分かりやすく、説得力のある取組や検証を行うことができます。



◎「知」に関する項目

本年度の重点目標 (目指す子どもの姿を示す)	主体的に学び、「わかった・できた」を実感することができる子どもの育成	
年度当初の計画		
達成指標 (達成した姿、目標値と現況値)	重点取組 (教職員の具体的な手立て)	取組指標 (誰が、頻度、確認の方法 など)
(1) 算数の単元末テストにおいて、すべての児童が70点以上得点する。	(1) 児童の言葉を生かした授業のまとめをすとも、習熟を図る時間を充実。	①(授業者) 適用題において、 <u>毎時間</u> 、習熟に応じた課題を用意。 ②(学年主任) <u>週1回</u> の学年部会で定着状況を協議し、不十分な児童への対応を助言。 ③(学力向上担当) 単元末テスト結果を実施後にまとめ、校内で共有し、 <u>月2回</u> の補充学習を計画。
目標値 100% 現況値 78%		
(2) 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりする。」 (12月児童アンケート) 肯定的回答率	(2) 全ての授業でペアやグループで考えを交流する場面を設定。	④(研究主任) 6月・10月・1月に児童アンケートで考えを交流する場面がどれくらいあったかを確認。 ⑤(管理職等) 学期に1回以上全教員の授業を1単位時間参観し、考えを交流する場面について指導助言。 ⑥(ICT担当) ICTを活用して考えを交流する方法についての校内研修を学期に1回実施。
目標値 80% 現況値 58%		
(3) すべての児童が主体的に家庭学習に取り組めるよう、端末の持ち帰りも含めた家庭学習方法を習得する。「家で自分で計画を立てて勉強している。」(12月児童アンケート) 肯定的回答率	(3) 帰りの会で、授業の振り返りを生かした家庭学習の計画を立てる時間を設定。(週末については端末の活用を含む)	⑦(各担任) 各自の習熟度に応じた内容や量になっているか、 <u>月1回以上</u> 確認。 ⑧(各担任) 児童が薦めの自主学習ノートをクラウドにアップロードし共有。(月1回以上) ⑨(学力向上担当者) 6月・10月に児童アンケートで家庭学習の計画を立てる時間の設定頻度を確認。
目標値 90% 現況値 75%		

「新様式のAPの記入例」

各学校では、「作成上の留意事項」や「説明スライド」を踏まえて、APを作成されると思いますが、ここでは、更に具体的な記入例を紹介します。

学校経営アドバイザーから校長先生へ

「記入上の留意点」として、「可能な限り簡潔に記入すること」と示されています。

重点目標を設定した現状・背景や目標値に対する思い、重点取組に込められた意図などを記入するスペースが足りないと感じられる校長先生もいらっしゃると思います。

それらは、訪問当日の面談で、しっかり伺いたいと思いますので、御理解のほどをよろしくお願いします。



「取組状況の分析・検証」の枠内に各学校の取組状況を自己評価できる欄を設定しています。

校内等で手段である重点取組の実行度等を振り返り、今後の取組を検討する際の参考になると考えますので、各学校の実情に合わせてご活用ください。



中間期の状況と年度末への課題	
取組状況の分析・検証 (手立ての実行度等)	今後の取組 (改善策や更に強化すること等)
①ほとんどの授業でできている。 ②おおむねできている。 ③できている。 ○単元末テスト…1学期末時点の各学年の割合 (小1)92% (小2)88% (小3)92% (小4)87% (小5)85% (小6)90%	
中間期の値 90%	A
④6月アンケート結果…63% (想定より低い) ⑤2名以外の教員の授業参観・指導助言は実施できた。 ⑥研修は実施できたが、考えを交流する場面での活用は授業者間で差がある。	④交流強化週間を2学期中に2回設定。 ⑥各担任がICT端末活用場面を週時程表に明示し、2学期中に各自3回以上参観。
中間期の値 55%	C
⑦どのクラスも確認はできているが、フォローアップが徹底できていない。 ⑧12クラス中8クラスができた。 ⑨毎日設定しているクラスが12クラス中10クラス。	⑦できていないクラス担任に学力担当者や学年団で助言・援助。 ⑧全クラスのアップロードを実施。 ⑨帰りの会の運営の仕方を学年部で指導徹底。
中間期の値 79%	B

年度末の評価	
取組状況の分析・検証 (手立ての実行度等)	
①行事の集中した10～11月以外は、ほぼ計画どおり。 ②③計画どおり実施。 ○単元末テスト…1月末の各学年の割合 (小1)93% (小2)90% (小3)94% (小4)87% (小5)87% (小6)93%	
年度末の値 93%	A
④1月アンケート結果…76% 強化週間を2回設け、交流場面を拡充した。 ⑤2学期は、全教員の授業を参観。 ⑥3回以上の参観者は、14人中11人。 すべてICTを活用した交流場面が見られた。	
年度末の値 65%	B
⑦月1回の確認に加え、学年団でフォローする体制ができた。 ⑧⑨全クラス実施。	
年度末の値 84%	A